

## 推進校別中間報告書（平成16年度）

### 1 推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
ひろしまけんりつせとだこうとうがっこう 広島県立瀬戸田高等学校	広島県豊田郡瀬戸田町 名荷1110-2	0845-27-0054	191名	

### 2 研究課題

地域の人材を活用し，家庭や地域社会との連携による開かれた道德教育の充実  
高等学校における道德教育の充実

### 3 研究主題とその設定理由

#### (1) 研究主題

心に響く道德教育「瀬高STEP UP」の実践と発展・充実（豊かな心の創造）

（心に響く道德的实践を通して，自己教育能力を高め，本校のスクールアイデンティティである「STEP UP」～絶え間ない向上心～の発展と充実を図る）

#### (2) 設定理由

本校は，瀬戸内海の生口島（人口約11,000人）に位置する学校である。学校の規模は，各学年2クラス，全校生徒191人（平成16年5月1日現在）の小規模校である。生徒は，おおらかで優しく，人なつっこいという特徴があるが，その反面，やや向上心に欠けたり，日頃から緊張感を持った生活ができないという面も見られる。数年前までは何をすることも緊張や落ち着きがなく，いわゆる生徒指導面でも問題を起こす生徒が多く見られた。しかし，3～4年前ぐらいから，生徒の気質がよい方向に変化してきたということもあるが，より厳しい生徒指導體制の確立と指導実践を行ってきた結果，中途退学や長期にわたる特別指導，繰り返し生徒指導を行わなければならないといったことが少なくなってきた。

多くの生徒は，我々が注意をしても反抗的な態度をとることはない。しかし，「注意すれば従う」「仕方ないからする」という『他律的な生活』の状態であり，「注意されなくてもきちんとしている」「してはいけないこと，やらなければいけないことが何かを日頃から考えて行動している」といった『自律的な生活』の状態ではない。

人間としての在り方生き方についての自覚と自己を生かす能力を涵養し，現在の状況を一步進めた「STEP UP」した学校にしたい，他律から自律へ移行した生徒，そして「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育てたいという考えから，教職員が時間をかけて思案したのがこの「STEP UP」である。本校のスクールアイデンティティである「STEP UP」～絶え間ない向上心～は，3年前に本校教職員が，今の「生徒に不足していること」・「発展させて生かすこと」・「充実させて生かすこと」等を出し合い，学校の目標として掲げた言葉である。これには，3つのC（challenge（挑戦） change（自己変革） competition（競争））という目標が含まれている。

これを昨年度も機会あるごとに全校生徒に示し，目標にしてきた。個々の項目において改善した点はあるものの，学校全体としては，なかなか思うような「STEP UP」までには，至っていない。

そこで，「STEP UP」が生徒の中に浸透していないのではないかと考え，その原因を探った結果，主に次の3点に思い至った。

生徒の基本的な生活態度（規範意識・マナー意識等）の意識の薄さ 目標のあいまいさ・自信のなさによる向上心の欠如 教職員の指導の不徹底・意識改革の欠如
---

道德教育の充実にあたっては，教職員と生徒が共に道德的価値とは何かを正しく理解し，体験活動や実践などを通して，学校と地域，保護者と教職員・生徒が信頼関係の基に一体となって教育活動を

行うことが重要である。

そのために、学校体制の確立、地域や保護者・生徒との信頼関係作り、環境作りなど全教育活動を通して行っていくとともに「自信と誇り教育」をする必要がある。そして、地域や保護者の信頼関係を今後さらに確立し、教職員・生徒が自信と誇りを持って、島に唯一の最高学府としての教育活動を行っていくべきであると考え、そのための存立基盤を確立するよう努めることにした。

以上のことから、本校の特徴的な環境を生かして、地域・保護者との協力体制をさらに発展させ、心に響く体験などを通して生徒が主体的に自己の内面を見つめ直し、さらに直面する課題や悩みの解決に取り組みながら、自ら「STEP UP」できるようにすることをねらいとして、研究主題を設定した。

#### 4 第1年度の研究の特色及び概要

##### (1) 研究の特色

本校のある生口島には、小学校が3校、中学校が2校、高等学校は1校あり(本校のみ)、小・中・高等学校の連携が大変強い地域である。

また、本校においては、3年次に実務・情報コース選択生を対象とした、年間を通してのインターンシップ(就労体験)を2単位で実施している。受け入れ先として、観光施設・保育園・病院・福祉施設などや商店街、造船・農業関係の企業等があり、それらの協力を得ながら職場実習を行っている。また、本校を含め、各小・中・高等学校においては、「総合的な学習の時間」等を活用し、社会人講話・職場見学・職場体験等を実施する中で、町の行政や商工会・企業との信頼関係が構築されつつある。

そして、昨年度までの3年間は、この地域が「小・中・高連携教育推進実践モデル」の地域指定を受け、教科指導や生徒指導面のほかに部活動や様々な学校行事等でも連携・協力を重ねてきており、それを本年度より3年間は、キャリア教育推進の地域指定として発展させていっている。

このような地域の状況から、本校においては、『地域連携型の道德教育の推進』を特色として実践していくことにした。

##### (2) 研究の概要

本年度、本校が実践していった内容は、主に次にあげる4つである。

推進体制の確立、体験活動や学校行事の充実、道德性を育成する視点を明確にした授業の実施、高等学校版「心のノート」(心の書きとめシート)の作成である。

まず、については、本校では「瀬戸田高校道德教育推進協議会」を立ち上げ、広島県教育委員会の指導を仰ぎ、京都教育大学の小寺正一副学長にアドバイザーをお願いした。その他、「地域連携型」を推進していくため、地域におられる多くの有識者の方々にこの協議会に入っただきながら、本校の推進していく教育内容に対する指導・助言をいただき、様々な実践をしていった。

は、昨年度まで本校の特徴的な行事として行ってきたPTAとの合同除草作業や体育祭などを発展させ、より地域連携型の行事にしたこと、そして、新たに地域に出向いて、ボランティア体験を行ったり、老人クラブの方々に協力いただいて、グランドゴルフをするといったふれあい体験も行った。

については、資料1のように、今年度の始めに「生命」・「愛」・「日本人」などの7つの項目とそれに関連する価値に当てはまる単元を各教科で考え、授業の年間計画(シラバス)の中で、道德教育の視点を取り入れた授業を計画的に組み入れた。これら7項目は、小中高全てに共通する学習指導要領の7つの目標に対応するもので、広島県教育委員会より例示されたものである。

については、本校においては、「心の書きとめシート」と呼び、体験活動や道德性を育成する視点を明確にした授業や活動について、書きとめシートに記入させ、自分らしい在り方生き方を見つけて自分らしく発展させていくことができるようにした。直面する課題や悩みに主体的に取り組み、健やかによりよく成長できることも目標とした。

資料 2 ～ 4 は、合同除草作業、体育祭における集団行動、現代社会の授業の後、生徒が書いた書きとめシートの抜粋である。

## 5 第 1 年度の研究成果及び課題

### ( 1 ) 研究成果

今年度当初、業者が作成した道徳性発達調査を、1 年生 6 0 名を対象にして実施した。これは高校生を対象に作成されたものではなく、中学校 3 年生用に作成された調査である。

道徳性の発達段階をコールバーグの発達段階に照らしてみると、段階 3 にあたる。

また、行動傾向を相対的評価すると、「自然や崇高なものとのかかわり」は E 評価が多かった。「自分自身に関すること」「集団や社会とのかかわり」については A 評価及び B 評価が多かった。「他人とのかかわり」については D 評価及び E 評価が多かった。

この調査結果を参考として、今年度の実践を進めてきた。「自然や崇高なものとのかかわり」の評価が低かったことに対し、多くの生徒が豊かな自然環境に囲まれて育ってきていることからして意外であった。今年度は、そういった自然にかかわることや郷土の産業や職業に触れる内容も多く取り入れ、自然に対する畏敬の念や、郷土や地域に住む先人たちへの感謝や思いやりの気持ちを持たせることができたように思う。

また、道徳性の視点を明確にした授業を実践する中で、他とのかかわりを大切にするという視点を取り入れた授業も行った。そのことにより、他人や集団とのかかわりを深め、協力・協同の精神も養うことができつつある。

道徳性発達調査については、今年度末または来年度当初に再度行う予定にしている。成果としてのデータがなく客観的な評価になるが、「心の書きとめシート」を見る限りでは、前述のような評価はできると考えられる。

### ( 2 ) 来年度以降の課題

今年度は目標を絞った形での計画・実践は、行ってこなかったが、来年度は現在の生徒の状況や今年度実践してきたことを総合的に考え、目標を重点化して行うことにした。

「郷土に生きる先人の生き方や郷土の産業に触れることによって、郷土を知り、地域の発展に貢献し、さらに豊かな文化の創造に努めることのできる生徒を育てる」「生命の尊重を考えることができる生徒を育てる」「公德心を考えることができる生徒を育てる」「自他を思いやる精神・感謝の気持ちを持つ生徒を育てる」の 4 つである。来年度はこれらを重点的に取り組み、推進していこうと考えている。

また、学校行事や体験活動を今年度よりさらに S T E P U P したものとするために、地域との連携をより密にして行っていきたいと考えている。

具体的には、体育祭において、保護者や地域の方々がより参加しやすいように種目を再考することや本校が創立 8 0 周年を迎えるにあたり、記念事業に生徒を参加されること、海に囲まれているという環境を活用してカッター訓練を行うことなどである。

「心の書きとめシート」においては、今年度の途中になって形ができたため、それ以前の学校行事や体験活動については書かせることができなかった。来年度は、年度当初より計画的に書き入れることができると考えている。

また、道徳性の視点を明確にした授業を、全教科において全体計画や学習プログラムに沿った学習指導案を作成し、実施していく予定にしている。

## 6 参照できるホームページアドレス

本校のホームページには、道徳教育関連の項目は現在のところ該当するものはありません。